

読解ワークシート

ねらい

従来授業で扱う機会の多くなかった速読技能を向上させながら、重要表現力を身につけ、作文技能を高める。英文の概要・要点を迅速に把握したり、多量の英文の中の必要な情報を限られた時間で読みとる技能が今日必要とされてきている。このような速読力を育成するには、従来の翻訳形式の勉強法では不十分で、時間を意識させた読みの練習が必要である。自分の読解力がどのくらい伸びるか、記録しながら進めよう。

速読力をつけるための手順：

1. 右下の学年、組、番、氏名に記入。
2. テキスト本文は予習しない。時計を用意する。
3. スタートの指示とともに、時間を計りながら、本文を読み始める。
4. 内容が十分理解できたと思えた時点で、読解に要した時間を表に記入する。
5. テキストの練習問題を読み、解答を記入する。このとき、テキスト本文を読み返さない。
(読み返すと正確な速読力を把握できなくなる。)
6. 教師の指示で、答えあわせをする。(グループ 全体)
8. 下の公式にそって、「1分あたりに、正確な理解度をともなって読める語数」を計算し、その数を記入する。WPM = words per minutes
9. このワークシートは、各自でテキストにはさんで、毎時間もってくるようにする。

公式

$$\text{WPM} = \frac{\text{総語数}}{\text{所要時間}} \times 60 \times \frac{\text{正解数}}{\text{総問題数}}$$

(例) 600語の本文を、4分間かかって読み、内容理解の設問(10問)の正解数が8だったときは、以下のようになります。

$$\text{WPM} = \frac{600}{240} \times 60 \times \frac{8}{10}$$

読解力記録シート

回数	1	2	3	4	5
本文の総語数					
読解に要した時間(秒)					
問題の正解数/総問題数					
WPM					

回数	6	7	8	9	10
本文の総語数					
読解に要した時間(秒)					
問題の正解数/総問題数					
WPM					

回数	11	12	13	14	15
本文の総語数					
読解に要した時間(秒)					
問題の正解数/総問題数					
WPM					

回数	16	17	18	19	20
本文の総語数					
読解に要した時間(秒)					
問題の正解数/総問題数					
WPM					

()年()組()番 氏名()